



61頁より続く

え、世を去る。

明治四十四年三月十五日没 享年六十三歳

十代 浄益 通称中川淳三郎 紹心。九代浄益が家運隆盛にかけた

が、志かなわぬまま他界し、その後十代を継いだ淳三郎は、若年より大阪の美術商中野善九郎方へ商売見習いに入っていたが、第一次世界大戦勃発により日本国中が軍需景気に沸く中、機をとらえ九代浄益の残した多額の借財を返済し、家運の安定を計ったと言われる。その後昭和初期の不況そして満州事変、日支事変と続く戦争の世にあって仕事も大変難しい時代を迎えたようである。しかし晩年は能、謡曲などに長じ、優雅な生涯を送った。代表作には三井家収蔵の青金の寿老、布袋の置物、京都祇園祭りの山鉾、岩戸山の四本柱金具のうち二本等がある。

昭和十五年五月十七日没 享年六十一歳

十一代 当代浄益 通称中川吉右衛門 紹真。二十歳で父の死にあり家業を継ぐ。先代先々代と吉右衛門を名のつていなかったが、戦後まもなく即中斎宗匠のご意見で昔の名前にもどした。大正九年生れ。

(校閲 中川浄益)